



会 期：2024年6月14日(金)、15日(土)
 会 場：赤坂インターシティコンファレンス
 テーマ：QOVを維持する糖尿病網膜症治療

主なプログラム

特別講演
 眼科系：石田 晋 先生(北海道大学眼科学教室 教授)
 内科系：大西 由希子 先生
 (朝日生命成人病研究所糖尿病内科 診療部長)
 「眼科医が知っておくべき GIP/GLP1 dual agonist」

シンポジウム
 眼科系：「徹底討論！増殖糖尿病網膜症の硝子体手術」
 「全身病態を勘案した糖尿病網膜症診療アップデート」
 内科系：「2型糖尿病治療の非薬物療法 revisited」

教育セミナー
 眼科系：「糖尿病網膜症診療ガイドライン徹底解説」
 内科系：「糖尿病の理解が深まる最新の話」

メディカルスタッフシンポジウム
 「眼科検査と患者ケア」

イベント情報

新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、延期や中止などの変更が生じる可能性がありますので、ご参加の際は最新の情報をご確認いただきたく存じます。

<第25回西東京眼科フォーラム>

2023年11月8日(水)19:00～21:00 場所：吉祥寺エクセルホテル東急(旧吉祥寺第一ホテル)8階
 会費：1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

特別講演：「アイフレイルと心療眼科-歳のせい、気のせいを超えて-」 気賀沢 一輝 先生(杏林大学医学部眼科学教室)

<第14回東京多摩眼科連携セミナー>

2024年5月11日(土)14:30～17:00 場所：杏林大学 大学院講堂
 会費：1,000円(日本眼科学会認定専門医2単位)

教育講演：「未定」 齋藤 康一郎 先生(杏林大学医学部耳鼻咽喉科学教室 主任教授)

<14th Eye Center Summit>

2024年5月25日(土)17:30～19:30(予定) 場所：TKP ガーデンシティ PREMIUM 京橋
 会費：2,000円(予定)(日本眼科学会認定専門医2単位)

特別講演1「未定(前眼部)」 外園 千恵 先生(京都府立医科大学眼科学教室 教授)
 特別講演2「未定(後眼部)」 村田 敏規 先生(信州大学医学部眼科学教室 教授)

編集部からのコメント

今回は、アイセンターを支える視能訓練士の特集です。当科は特に小児眼科にも力を入れていることが特徴です。来年4月から中野の立正佼成会附属佼成病院が杏林大学付属病院としてスタートします。半年後の開院に向けて着々と準備をしております。ニュースレターでも最新情報をお届けできると幸いです。(MI)

Kyorin Eye Center Newsletter

vol. 69
Fall
2023

〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2 杏林アイセンター Tel: 0422-47-5511 (ext. 2606) Fax: 0422-46-9309

- ◆アイセンター視能訓練士の紹介(名畑 浩昌)<1> ◆第30回日本糖尿病眼学会総会のご案内<4>
 - ◆最新機器の紹介<2-3> ◆イベント情報<4>
 - ◆アイセンターフォトアルバム<3> ◆編集部からのコメント<4>
- <執筆者:括弧に明記 production:黄剛穎、長塚克哉、田邊知佳、仲島みずき>

アイセンター 視能訓練士の紹介 (名畑 浩昌)

当アイセンターは網膜硝子体外来、黄斑外来、眼炎症外来、角膜外来、他にも様々な専門外来が曜日毎に設けられているため、日によって来院される患者さんの特色が変わってきます。1日の来院患者数は平均300件、多い日には400件を超える患者さんが来院します。中でも小児眼科外来は、夏休みや冬休みの時期になると小児眼科だけで100件を超える予約となるため外来検査室、待合室ともに大変賑やかになります。このような外来を現在、常勤16名非常勤2名の視能訓練士で回しており、日々連携し合い業務に励んでおります。

当院視能訓練士の特徴として、大人数でかつ男性と女性の比率が半々であることが他施設と異なっています。全国的に見ても昔に比べ男性視能訓練士が増えましたが、まだまだ女性が多い職種です。大人数が故に大変なこともあります。各々に役割を与え常に責任感を持って業務してもらうようにしています。多種多様な専門外来があるため、画像検査や斜視弱視検査、他にも分野毎に責任者を設け検査のアップデートや医師との架け橋になってもらうようにしています。検査機器台数は国内でも有数で、使いこなすまでに時間を要しますが、常に最新の機器に触れることのできる恵まれた環境に皆やりがいを感じて働いています。

学生教育にも力を入れており、現在2校の大学から実習生を受け入れており、来年度からはもう1校増やす予定であります。近い将来、臨地実習受け入れ施設は臨地実習指導者資格が必須になることが厚生労働省で検討されています。当院でもその資格を取得し、実習受け入れ施設としての万全な準備を進めているところです。

毎年春には専攻医を対象とした検査のクルズも視能訓練士が担当しており、検査手技の講義、見学を行った



上段左から：利根川美香、大泉篤司、武末啓秀、齋藤泉希、照井祐佳、西巻勇汰、服部玲奈
 中段左から：橋口絵里香、玉田俊介、青木貴郁
 下段左から：荒地里江、中村翔、名畑浩昌、松本真弥

後実際に患者さんへの検査も行ってもらっています。最初に体感してもらうことで今後の検査オーダーをする際にも役立ちますし、当直時の緊急の患者さんの検査も医師自身で対応可能となります。そのため我々はこのクルズは責任を持って行うようにしております。このような機会があるため、視能訓練士と医師との距離感が近く、コミュニケーションも非常に良くとれていると感じています。

これからさらに視能訓練士のチームワークを高め、日々最新知見のアップデートを行い、来院される患者さんのために最高の医療を提供できるよう努めてまいります。

